日印インド太平洋フォーラム
「インドと日本：国際秩序及びインド太平洋の安定を支える要」

ナマスカール(Namaskar)、外務大臣の茂木敏充です。日本政府を代表して、第９回「日印インド太平洋フォーラム」の開催をお祝い申し上げます。

このフォーラムは、２０１６年に開始されて以来、日印間の「トラック１．５」外交の一環として、重要な役割を果たしてきました。

今回のテーマである「インドと日本：国際秩序及びインド太平洋の安定を支える要」は、国際社会が厳しい安全保障環境に直面する中、大変時宜を得たものです。

世界は今、パワーバランスの変化や、紛争・対立の激化、急速な技術革新を受けて、大きな構造的変化に直面しています。

こうした厳しい時代にあっても、日本とインドは、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を形作り、維持する意志を共有しています。不安定で不確実性の高まる地政学的環境において、両国が果たす役割は、ますます重要になっています。

今年５月には、日本は、各国の「自律性」、「強靱性」の強化に重点を置いた「進化したＦＯＩＰ」を発表しました。この「進化したＦＯＩＰ」は、モディ首相の

「マハー・サーガル」や「インド太平洋海洋イニシアティブ」といった取組と軌を一にするものです。

首脳間でも確認しているとおり、日印両国は、地域全体で、共に強く、共に豊かになるため、戦略的協力関係を更に深化させていきます。私も、長年の友人であるジャイシャンカル外相とともに、具体的な協力を一層深めていくことを楽しみにしています。

こうした取組を前進させるためには、本日ご参加の皆さんを始め、産官学それぞれの立場からの協力が不可欠です。このフォーラムが、来年、国交樹立７５周年を迎える日本とインドの更なる関係強化に向けた素晴らしい機会となることを期待しています。

ダンニャワード（Dhanyawad）。